

きょうと し すいがい み  
京都市水害ハザードマップを見てください

ことし すうねん あいだ いろいろな ところ おおあめ ひがいで 大雨による被害が出ています。今年7月はじめの大雨の

とき しもぎょうく すべ ちいき ひなん ひつよう だ ひなんかんこく じょうほう で  
時、下京区の全ての地域で、避難が必要なときに出される避難勧告などの情報が出ました。

ことし がつ きょうとし きょうとし すいがい すいがい  
今年5月、京都市は、京都市水害ハザードマップをつくりました。水害ハザードマ

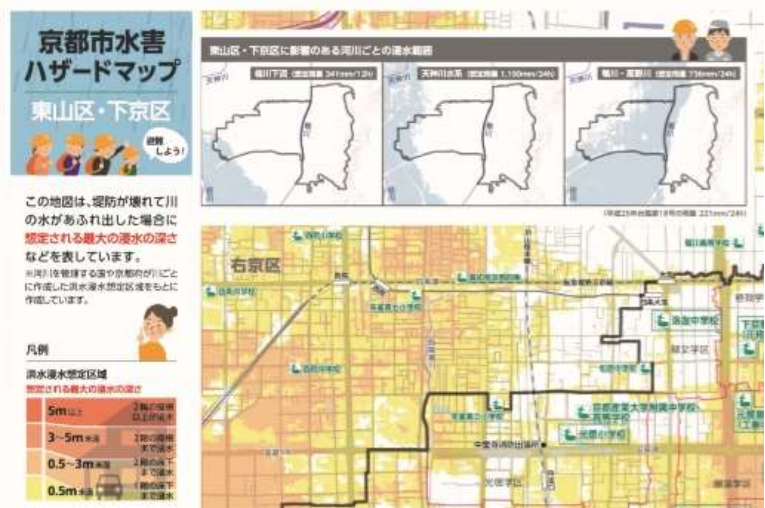
ップは、あめがたくさん ぷ 降ったときにあぶ ばしよ ひなん ばしよ か ちず ちず  
雨がたくさん降ったときに危ない場所や避難する場所が書いてある地図です。雨

がたくさん ぷ 降ったときにあぶ 危ないかを知ってもらうためにつくられました。しみん

はさ うち くば みな み  
んぶんに挟んでお家に配られました。皆さんもぜひ見てください。

にしやま きょうとし かい さいがい つよ たんとう そうむししょうぼういん  
西山のぶまさは、京都市会では、災害に強いまちづくりも担当する「総務消防委員

かい はい きょうとし さいがい つよ がんば  
会」に入っています。京都市が災害に強いまちとなるよう頑張ります。



# お元気なお年寄りがますます活躍できるよう報告書を作りました

西山のぶまさは、お元気なお年寄りがもっと活躍するにはどうすればよいかを考えました。考えをまとめたものを報告書にして、5月16日、門川大作京都市長に渡しました。報告書の名前は、「超高齢社会・少子社会とアクティブシニアの重要性に関する調査研究報告書」といいます。西山が個人としてまとめた初めての報告書です。

「アクティブシニア」とは、お年寄りになって会社をやめてからも、趣味やいろいろな活動を楽しみたいと思う人達のことをいいます。“人生100年時代”（多くの人が100年生きる時代）が来ると言われています。いろいろな経験をしてこられたお年寄りには、もっといろいろなところで活躍してほしいです。一人でも多くの方が新しいことに挑戦できるような社会をつくるため私も頑張ります。この報告書は、西山のぶまさのホームページのブログでも見ることができます。



あたら えき なまえ うめこうじきょうとにし えき  
新しい駅の名前は「梅小路京都西」駅

きょうとえき たんばぐちえき あいだ あたら えき なまえ うめこうじきょうとにし えき き  
JR京都駅と丹波口駅の間に新しくできる駅の名前が「梅小路京都西」駅に決まり

ました。へいせい ねんはる つか こうじ よてい すず  
平成31年春から使えるようにするため、工事が予定どおり進んでいます。

がつ にち こうめいとうきょうとしかいぎいんだん こうじ ようす み い あたら えき しち  
5月17日、公明党京都市議員団で工事の様子を見に行きました。新しい駅から七

じょうどおりきたがわ べんり おうだんほどうきょうつく あめ やね  
条通北側には便利になるように横断歩道橋が作られます。雨にぬれないように屋根も

できます。また、ちか うめこうじこうえん しちじょういりぐちひろば ある  
近頃の梅小路公園の七条入口広場も歩きやすくなります。



# まっすぐ！▶ 未来へ。 にしやま 西山のぶまさからのメッセージ

2010年ころから「イクメン」という言葉が使われています。「イクメン」は子育てに頑張るお父さんのことをいいます。国の調べでは、半分以上の男性が「男性も家事や子育てをするのが当たり前」だと考えています。このことからすると、「イクメン」が増えてきているように思います。しかし、実際は、女性だけに大きな負担がかかっています。ある調べでは、共働き（夫婦がどちらも仕事をしている）でも、お父さんが家事や子育てを分担する割合は2割にもなりません。共働きが増えているので、今までよりも家事や子育てで苦しんでいるお母さんが増えていると思います。

毎年、その年にはやった言葉を決める「流行語大賞」があります。昨年の「流行語大賞」の候補に「ワンオペ育児」という言葉が選ばれました。「ワンオペ」とは「ワンオペレーション」のことで、一人の人にすべて作業させることをいいます。「ワンオペ育児」とは、お母さんひとりに家事・子育てをさせることをいいます。

私の家も「ワンオペ育児」に近い状態かもしれません。私が「ワンオペ育児」のことを言うのも妻には申し訳ありません。しかし、これまでのことを反省して、今からでも子育てに頑張ろうとしています。まずは、子育てに頑張るお父さんを応援する取り組みを増やすよう京都市会の本会議で市長にお願いしました。家では、一人娘と一緒に歯医者

に行ったり、2人で出かけたりしています。また、学校の行事にもできるだけ参加しようとしています。学校行事に参加してみると、やはりお父さんの参加が少なく寂しい思いがします。

このジャーナル表面で「イクメンの五段活用」のことを書きました。「イクメン」は、お母さんを助けます。でも、それだけではなくて、お父さんの生き方を変えます。お父さんがいろいろな形で社会で活躍するようになります。そして、それが、超高齢社会（お年寄りが多い社会）などの日本の課題の解決にも繋がっていくことが期待されています。

西山のぶまさは、4年前に初めて立候補した時から、「まっすぐ！ こどもが輝く社会へ。」を目指して頑張っています。下京と京都の未来のために、新しい子育て支援の取り組みができるよう、これからも全力で頑張ります。

LINE@はじめました。お友達、募集中！

暮らしに役立つ市の情報や西山のぶまさの活動をお届けする「LINE@（ラインアット）」。スマートフォンでLINEを利用されている方ならQRコード（下）もしくはID検索（@nishiyamanobumasa）で、すぐに登録できます。

